＜＜＜インフラ整備と道普請／スーパー林道早期開通＞＞＞

/YamashiroFusionSR.jpg

「モノからコトへ」とはバブル期のキャッチコピーで、「コンクリートから人へ」や「箱モノ行政」とも同じ匂いがしますが、モノ作りやインフラ整備は社会基盤として必要であり、それをどう利活用するかが重要です。つまり直接的な経済効果はもとより、二次効果、三次効果のマルチ効果の方が更に重要で、例えば治山事業に携わる会社がその地域に存在することが、機材や人材の確保につながり、実はガソリンスタンドの維持にも寄与しています。（※モノ作りは工業製品だけでなく、農業産品や建設構造物も含む！）
話しを錦川にフォーカスすると、錦帯橋の維持管理の技術伝承人材確保のための周期的な架け替えは良いことだと思いますが、それだけでなく、そのノウハウを他の建造物への利活用や、部材確保の森林保全も含めた、営みのサイクルを作り、それらも観光資源にするぐらいの構想が必要です。話しを更に拡げるなら、錦帯橋が流失した昭和２５年のキジヤ台風で、錦川沿いの道が通行困難になり、阿品弥山から続く尾根道を辿って物資調達に向かったと向峠に住む古老が語っていました。似たような話は最近の豪雨被害や地震災害でも聞かれ、最新技術を駆使した立派な道は、地形に逆らって作った箇所も含まれ、意外と脆く、人力で作るしかなかった昔の峠道の方が意外と残っていてそれで命を繋いだと。。。

*

四国・九州も見えるパノラマビューを誇る「羅漢山」は、山口・広島の県境に位置し、本郷・錦・美和が絡む高原も有しており、宇佐川、本郷川、横道川の三方向からアプローチできますが、何れも女性ドライバーからは敬遠される酷道です。また、名前の由来とされる奇岩が点在する「羅漢山」は、山様から「生山」とも呼ばれていたようで、北側にある生山峠は津和野街道の一部となっており、それを流用した「中国自然歩道」も整備されていますが、それ以外の山上集落を結ぶ山道は廃道と化しています。

*

つまり、観光資源としての羅漢高原へのアプローチのためのインフラ整備と、地域資源としての昔道復活のための道普請は、同時並行で進める必要があると言うことを、「山口むしの会」との意見交換で再認識したところです。

そしてその痕跡が消えつつある昔道は確かに数多く存在しますが、ＭＴＢツーリングで楽しめる場所にあるとは限らず、また復活道普請を行ったとしても、そう簡単に走れる訳ではなく、追加の路面整備や日常のセキュリティの確保、そして何より定期的なメンテナンスも必要で、仲間や地元との融合的協力体制が必要十分条件となります。

やましろ MTB ツアーズ外伝／道普請レポート ⇒ /toretoreGR/Yamashiro_Trail_Maintenance.htm